

「弦歌」の世界楽しんで

本県ゆかりの箏・三弦演奏家

馬場尋子さんがCD制作

与板町(現長岡市)出身の日本画家、大矢紀さん、十四彦さんの妹で箏・三弦演奏家の馬場尋子さん(65)＝京都市＝がCD

「弦歌の世界 馬場尋子」を制作し、日本伝統文化振興財団から発売した。CD化にあたっては、兄の美術評論家、鞆音さんの協力もあった。ジャケットに

は紀さんの作品をあしらった。馬場さんは「伝統文化に触れてもらう契機になれば」と話す。

馬場さんは箏、三弦の旋律に万葉集をテーマにした歌を付けて演奏する独自のスタイルで、音楽業界からも注目されている。

CDには、三弦と歌に朗かつみ、箏と歌による「琴相聞」など4曲を収めた。いずれも作曲家に委嘱

したオリジナル曲。歌詞は万葉集を中心に日本の古い歌をそのまま使っている。収録曲のうち、「国個歌」は奈良県立万葉文化館総合プロデューサーを務めた鞆音さんが作曲家に委嘱し、同館で披露された曲だ。ジャケットには同館所蔵の紀さんの作品を用いた。

馬場さんは「兄たちにも応援してもらって、CDにまとめることができた」と振り返る。「箏も三弦も素晴らしい日本の伝統楽器。さまざまな音が奏でられ、弾き語りのようなこともできる。CDでその調べを楽しんでほしい」と話す。

タイトルにある「弦歌」は自身の造語。箏や三弦の演奏に乗せて「歌語り」を聴いているかのような世界に聴き手をいざなう音楽だ。

現代邦楽の第一人者で歌付きの新曲も発表していた故・沢井忠夫に師事し、研



「弦による万葉集」馬場尋子「弦歌の世界」のジャケット。兄の大矢紀さんの作品をあしらっている

さんを積んだ。「入門当初から沢井先生には『あなたに歌がいい。歌のある曲をやりなさい』と、この道に導いていただいた」と感謝する。

CDは店頭で購入できるほか、インターネットでも取り寄せられる。問い合わせは日本伝統文化振興財団、03(3222)4155。